

埋文センターニュース

第13号

2001.3.30

津市埋蔵文化財センター



3月10日 埋蔵文化財体験講座

雲出島貫遺跡

～最近の発掘調査から①～

くも づ し ま め き い せ き
雲出島貫遺跡は、津市の南部を流れる雲出川の北岸に広がる遺跡です。平成9～11年に行われた調査では、縄文時代の墓、弥生時代後期から古墳時代前期の環濠に囲まれた集落と墓、さらには豪華な副葬品をもつ中世墓と堀で囲まれた屋敷地などが見つかり、注目される遺跡です。

今回、これらが見つかった場所の西側に道路が建設されることになり、その部分約440㎡について発掘調査を行いました。

調査の結果、遺構は自然流路や谷がほとんどで、少なくとも今回調査した範囲には集落はなかったようです。ただ、調査区の東端で見つかった溝は、幅約2.0m、深さ約0.6mあり、弥生時代末から古墳時代初頭の土器がたくさん出土しています。東側の集落や水田に関連するものと考えられます。

遺物は、弥生時代から鎌倉時代の土器が中心ですが、少し変わったものとしては、朱の付着したものや製塩土器などもあります。

また、調査中に高茶屋小学校の生徒が見学にみえました。調査の様子や出土した土器の説明をした後、30分ほどのわずかな時間でしたが、実際に発掘の体験を行ってもらうことができました。土器を堀り出すたびに歓声が上がり、有意義な体験ができたと思います。

(米山)



調査区東半部全景（西から）



主な出土遺物



遺跡位置図（1：40,000、●は調査区）



高茶屋小作業風景

位田遺跡 ～最近の発掘遺跡から②～

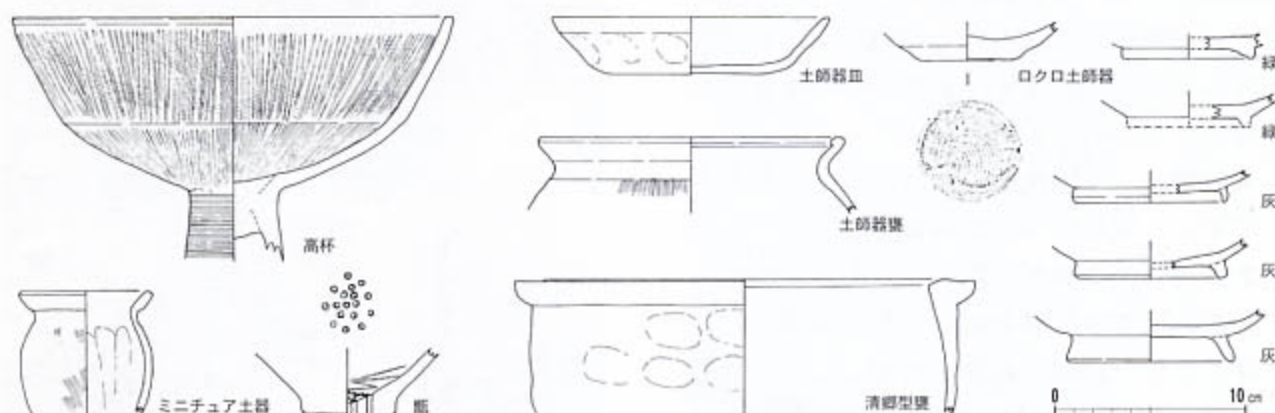
位田遺跡は、津市内を東に向かって流れる安濃川の北岸沖積地にある遺跡です。平成8年に行われた調査で古墳時代前期と平安時代を中心とする複合遺跡であることが判明しており、今回は国道23号中勢バイパス建設工事に先立ち、前回の調査区の西側にあたる箇所を発掘調査を実施しました。

調査区のすぐ南側には安濃川が流れ、遺跡は旧来の自然堤防上の微高地に営まれていることが判ります。調査の結果、平安時代と考えられる上層遺構面では、東西方向に走る細い溝を確認し、建物としてはまとまらないもののいくつかのピット（柱穴）も見つかりました。また、古墳時代前期と考えられる下層

遺構面でも1条の溝を確認しています。

出土遺物は全体的にあまり多くありません。図示したような弥生時代後期～古墳時代にかけての土器や平安時代の土器が出土しています。なかでも緑釉陶器や灰釉陶器は、この遺跡の性格にも関わる遺物と言えるでしょう。

平安時代の掘立柱建物や古墳時代前期の方形周溝墓など、前回の調査で確認されたような明確な遺構は見つからなかったものの、同時期の遺構や遺物が確認されたことで遺跡範囲が西側にも広がることが判りました。また、北側の調査区では遺構は皆無であり、安濃川に沿った形で居住区や墓域が広がっていることも明瞭となりました。（中村）



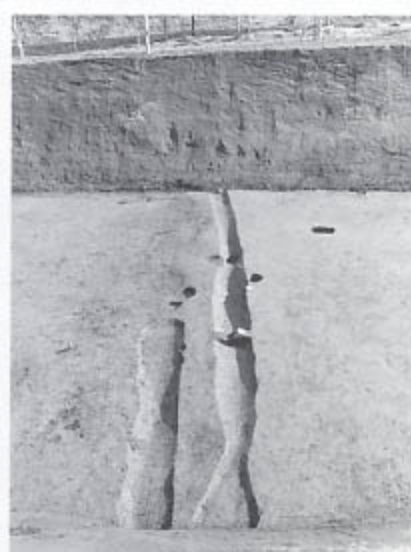
出土遺物実測図 [1:4] (緑; 緑釉陶器、灰; 灰釉陶器)



遺跡位置図 (1:50,000)



調査区 (上層遺構面)



東西方向に延びる溝

埋蔵文化財体験講座の開催

早春とはいえ風の冷たさの残る3月10日。

センター主催の市民向け講座として初めて『埋蔵文化財体験講座と古墳探訪』と銘打った公開講座を開催しました。埋蔵文化財センターではどんな仕事をし、遺跡の発掘調査はどのように行われるのか、などを学芸員が分かりやすく解説して、あわせて施設の紹介も行いました。また、遺跡から出土した遺物の接合や拓本を受講者自らで体験していただきました。講座の後半では、身近にある遺跡の実地見学として、埋文センターから20分ほどの場所にあるメクサ古墳群へのウォーキングを取り入れました。

今回の講座の特徴は、本格的な歴史講座としてではなく、参加者の皆さんに埋蔵文化財を少しでも身近に感じとっていただけるよう、体験を重視した講座としたことです。これは前号でお伝えした小学校へ出張講座と対をなすもので、こうした体験学習を中心にした講座の開催が、埋文センターから広く市民に向けての情報発信のひとつになるものと考えています。

今年度の公開講座はこの1日だけでしたが、来年度以降は、身近な文化財に触れる機会として更に内容を充実させた企画を検討中です。

ご期待ください。

(中村)



接合に挑戦



拓本実習



施設見学



メクサ古墳群の実地見学

遺跡・遺物紹介⑫

津市指定史跡 高井古墳

今回は津市片田井戸町字高井にある津市指定史跡高井古墳を紹介します。

高井古墳は市の中心部から西に約8 km、岩田川に沿ってひらけた小平野を見下ろす標高約28 mの丘陵突端部に築造された直径約14 mの円墳です。現在は住宅団地の一角にあたり、古墳周辺の地形は築造当初とは大きく変わっていますが、墳丘からは、津市と上野市を結ぶ旧伊賀街道（ほぼ現在の国道163号）に沿った片田地区の町並みや、津市のランドマーク的な存在の長谷山（標高321 m）を望むことができます。長谷山には450基を超える古墳が築造されていて、県下有数の古墳密集地帯としても知られています。その麓にあたる片田地区の丘陵にも、高井古墳をはじめ、幾つかの古墳が確認されています。しかし、かつては八乳合古墳群や片田東浦古墳群のように、開発や開墾などで破壊されてしまうことが多く、高井古墳の発掘調査は、市内初の学術調査として、当時たいへん注目されました。

さて、高井古墳の発掘調査は、昭和31年11月21日から8日間、三重大学の学生と地元の高校生たちによって行われました。昭和16年の県道（現在の国道163号）建設に伴う土取りで、墳丘の一部が削り取られたため、羨道や石室の天井部分はすでに失われていましたが、東を向いた横穴式石室は、残存する長さが3.75



高井古墳位置図 (1 : 20,000)



横穴式石室内の発掘 (金子安雄氏資料)



甕棺墓の実測 (金子安雄氏資料)



調査直後の高井古墳 [写真は下が北] (大林日出雄氏寄贈資料)

m、幅が平均で1.75m、奥壁の高さが1.30m、奥壁や側壁の大きな石は、一志層群の硬い岩盤を掘り込んで据えられていました。

石室からは、須恵器(1～10)や土師器(11～12)、鉄刀や鉄鏃(73)などの破片、耳環や管玉などの装身具(23～72)、人の臼歯が出土しました。また、墳丘の南裾からは土師器の甕を二つ組合せた甕棺墓(14・15)が見つかりました。これらの出土遺物から、高井古墳は6世紀後半に築造されたものと考えられます。

高井古墳は発掘調査後、土地を所有者から

市に寄贈いただき、市史跡として保存されることになりました。また、出土した遺物については現在、津市埋蔵文化財センターで保管しています。

高井古墳は、三重県における埋蔵文化財保護の礎となった大切な遺跡です。文化財保護法が制定されて50年経った今、これからは、地域の歴史や文化はもちろんのこと、このような文化財保護の軌跡なども伝えて行きたいと思います。

(藤田)

参考資料：服部貞蔵『津市片岡町高井古墳発掘調査報告』三重大学文学部歴史研究会 1958



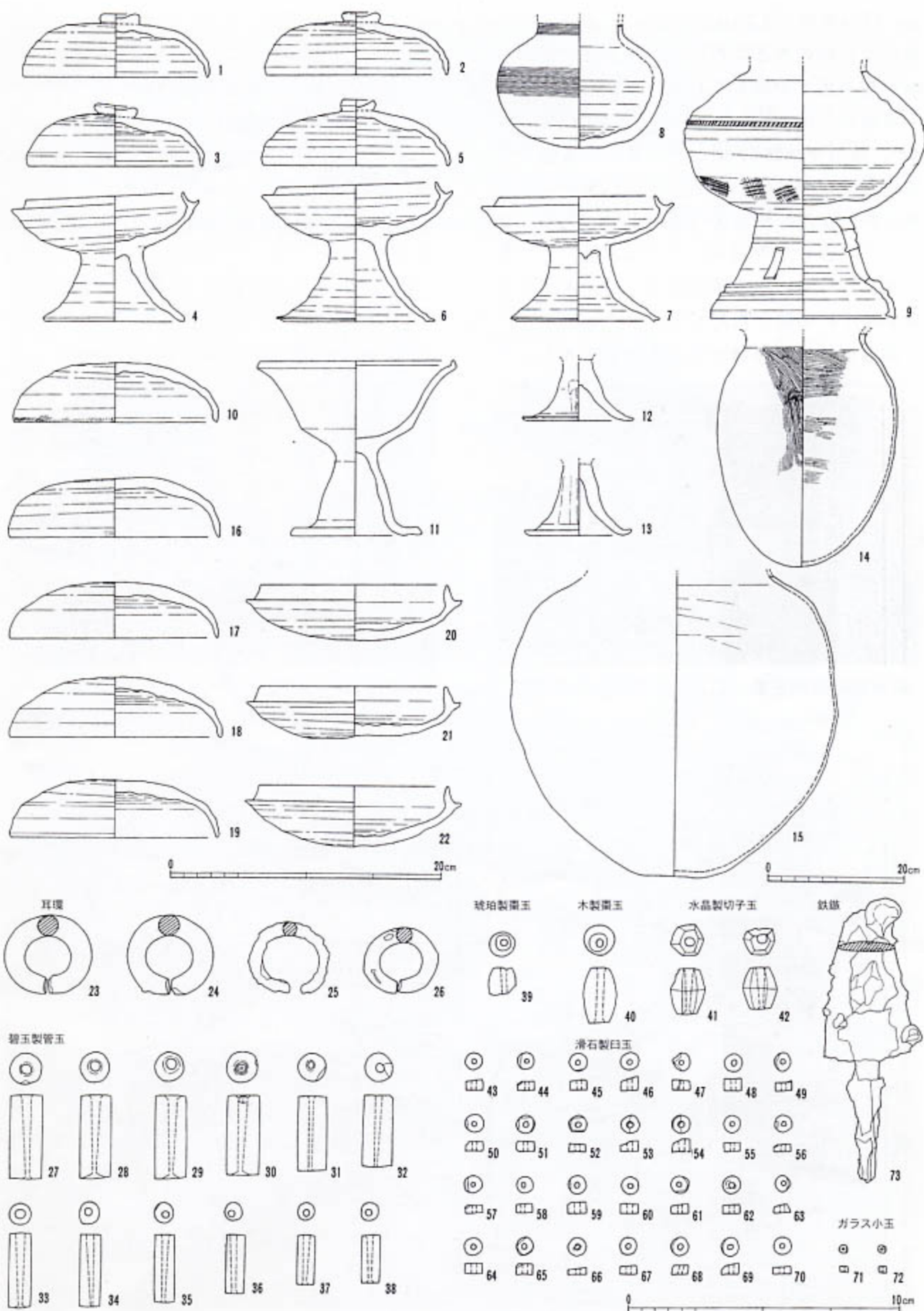
調査員の説明を聞くこどもたち (大林日出雄氏寄贈資料)



市史跡として保存されている横穴式石室



横穴式石室から出土した遺物



高井古墳出土遺物実測図

石室出土須恵器・土師器 (1~13)、甕棺墓出土須恵器 (16~22) [1:4]
甕棺 (14・15) [1:8] 石室出土装身具・鉄鍔 (23~73) [1:2]

埋文センターの一年

今年度の発掘調査は公共事業に伴う調査が2件あり、担当者はそれぞれ報告書刊行に向けての作業に追われています。

文化財保護法50周年にあたる今年度は、来館者が昨年の約1.5倍の約900人まで伸びて、普及面では躍進の年になりました。遠足や出張講座の件数が大幅に増えただけでなく、新たに「総合的な学習」の見学や講師派遣なども増えています。今後もこれらを通して、子どもたちに身近なところにある遺跡や、そこ

から出土した遺物などと触れあう機会を提供していければと考えています。

また、学校教育だけでなく、広く市民のみなさんにも、埋蔵文化財に関する知識や理解を深めていただけるよう、市政教室等の施設見学に加え、今年度から埋蔵文化財体験講座を開講することになりました。

これからも、こうした活動を継続していきたいと考えていますので、みなさんの文化財保護へのご理解とご協力をお願いします。

平成12年度

- 4月3日《調査》専修寺御影堂試掘調査
 17日《普及》出張講座（南立誠小学校）
 18日《調査》垂水字池の谷地内試掘調査
 《普及》出張講座（椋本小学校）
 19日《普及》出張講座（大里小学校）
 24日《普及》出張講座（高野尾小学校）
 25日《見学》神戸小学校遠足 89名
 《見学》新町小学校遠足 84名
 27日《普及》出張講座（雲出小学校）
 28日《見学》西が丘小学校遠足 149名
 5月1日《見学》片田小学校遠足 94名
 8日《普及》出張講座（育生小学校）
 9日《普及》出張講座（安東小学校）
 12日《会議》県埋文専門担当者会議出席
 18日《見学》安東小学校校外学習 34名
 6月8日《普及》出張講座（櫛形小学校）
 16日《見学》橋北中学校総合学習 42名
 21日《見学》市政教室（養正婦人会）30名
 26日《見学》家庭教育学級（敬和小）25名

- 7月6日《見学》市政見学会（敬和公民館）40名
 19日《会議》県埋文専門担当者会議出席
 9月28日《見学》三重社会保険センター 40名
 10月5日《普及》出張講座（藤水小学校）
 23日《見学》寿大学（豊里公民館）24名
 30・31日《会議》公立埋文協東海北陸ブロック会議出席
 31日《見学》寿大学（豊里公民館）30名
 11月6日《調査》雲出島貫遺跡発掘調査

（12月11日まで）

- 24日《調査》西橋内中学校総合学習
 28日《会議》県埋文専門担当者会議出席
 30日《見学》家庭教育学級（修成幼）25名
 12月18日《調査》位田遺跡発掘調査（2月20日まで）
 1月12日《見学》ときめきゼミナール 46名
 16日《調査》西焼尾古墳群試掘調査
 3月1日《見学》家庭教育学級（豊が丘小）30名
 2日《会議》県埋文専門担当者会議出席
 10日《普及》埋蔵文化財体験講座 15名

《編集後記》

梅の季節が過ぎ、桜の便りを待つ今日この頃、至上命題である発掘調査報告書の作成には、何といっても“365歩のマーチ”が最適。「報告書は歩いてこない！だから測って行くんだよ～。1日〇個！3日で×個！！…」と唱えながら、まずは遺物実測に励む日々が続いています。

（藤）

発行日：2001.3.30

編集・発行：津市埋蔵文化財センター
 〒514-0058

三重県津市安東町1225

TEL 059-229-0210

FAX 059-229-4601

印刷：森田印刷株式会社